

一般社団法人全国医学部長病院長会議・国立大学医学部長会議
 第3回各大学における新型コロナウイルスへの対応に関するアンケート(令和3年3月17日実施)
 集計結果(令和3年4月15日集計)

調査対象:国公立82大学(国立43、公立8、私立31)

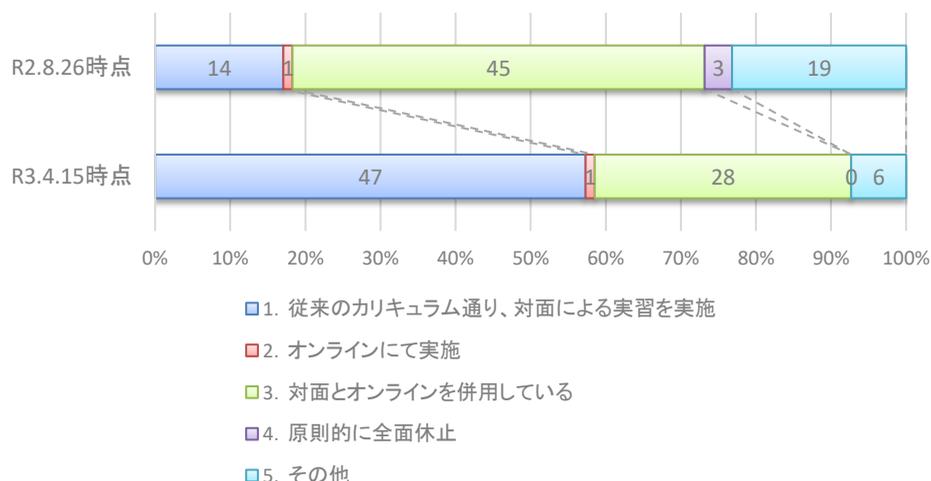
回答: 82 大学(100.0%)
 国立: 43 大学(100.0%)
 公立: 8 大学(100.0%)
 私立: 31 大学(100.0%)

Q1. 学内の病院実習について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. 従来のカリキュラム通り、対面による実習を実施	47	57.3% (17.1%)	24 55.8%	4 50.0%	19 61.3%
2. オンラインにて実施	1	1.2% (1.2%)	0 0.0%	0 0.0%	1 3.2%
3. 対面とオンラインを併用している	28	34.1% (54.9%)	15 34.9%	3 37.5%	10 32.3%
4. 原則的に全面休止	0	0.0% (3.7%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
5. その他	6	7.3% (23.2%)	4 9.3%	1 12.5%	1 3.2%
計(校)	82		43	8	31

学内の病院実習の状況(82大学)



「3. 対面とオンラインを併用している」の内容 (主な回答)

- 新年度開始時点では6年生の実習を対面、5年生の実習をオンラインとし、5月頃より5年生も対面による実習となる予定。
- 感染防御のため制限された対面実習に加え、講義、シナリオトレーニング等をオンラインで行っている。内容は各診療科に任せられている。
- 病棟や外来での臨床実習は感染防止対策に十分留意した上で原則対面で実施し、臨床実習中に適宜実施されるカンファレンス・クルーズ等については、各診療科の判断でオンラインを用いて実施する。
- 従来通り対面による実習を行っているが、カンファレンスはオンライン参加とする等、3密回避・感染予防に配慮し、実習先ごとの判断で対面とオンラインを併用している。
- 患者との接触を禁止し、患者への医行為は問診までとし、検査や手術の参加、身体診察は見学型としている。また、院内での3密状態を生じないように、代替できる内容があれば遠隔にて実習している。但し、遠隔授業を併用しているのは一部の診療科であり、その中でも8割以上の実習時間は対面で行われている。

「5. その他」の場合の内容 (主な回答)

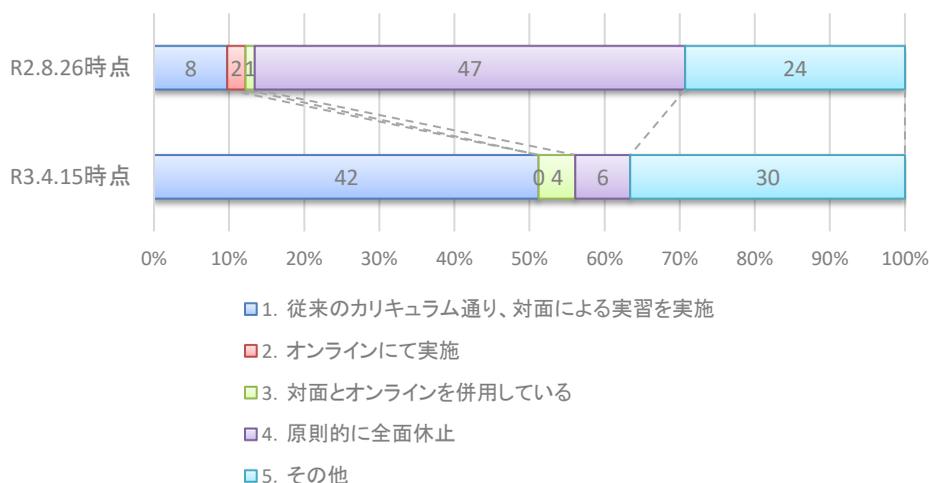
- 緊急事態宣言中およびまん延防止等重点措置適中はオンライン等での実施とし、宣言解除後に対面による実習を行う予定である。
- 原則は対面だが、感冒症状などを有する学生や、コロナ患者と接触した可能性のある学生、同居者が有症状の場合などは登校停止とし、オンライン実習に切り替えている。

Q2. 学外の病院実習について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体			国立		公立		私立	
	件数	割合	(前回)	件数	割合	件数	割合	件数	割合
1. 従来のカリキュラム通り、対面による実習を実施	42	51.2%	(9.8%)	23	53.5%	4	50.0%	15	48.4%
2. オンラインにて実施	0	0.0%	(2.4%)	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
3. 対面とオンラインを併用している	4	4.9%	(1.2%)	3	7.0%	0	0.0%	1	3.2%
4. 原則的に全面休止	6	7.3%	(57.3%)	2	4.7%	0	0.0%	4	12.9%
5. その他	30	36.6%	(29.3%)	15	34.9%	4	50.0%	11	35.5%
計(校)	82			43		8		31	

学外の病院実習の状況(82大学)



「3. 対面とオンラインを併用している」の内容

- 実施感染症対策の上、対面で実施している。感染者等が発生した場合は、学内もしくはオンラインに切り替える等対応している。
- 各院外施設の判断により、オンラインでの実習も可能としている。
- 医学部として、学外実習を再開しているが、診療科の判断で、オンラインでの実習とすることも可能としている。

「4. 原則的に全面休止」の代替案 (主な回答)

- 地域実習はWebで学修するカリキュラムを作成し代替で実施。学外医療施設で行うクラークシップや海外での臨床実習は、学内の臨床実習(対面)に振り替えて実施。
- 学内実習への振替と、オンラインでの代替プログラムによる課題学習。

「5. その他」の場合の内容 (主な回答)

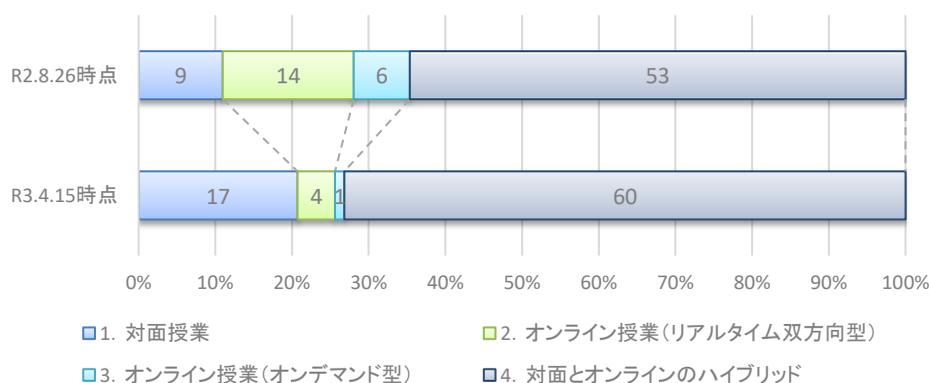
- 一部の学外実習については従来のカリキュラム通り対面による実習を実施、その他は学内での実習に振り替え
- 受け入れ可能な施設において対面での実習をおこなう。学外施設はオンラインでの実習は実施しない。
- 学生の受け入れ可と回答いただいた学外施設では、従来のカリキュラム通り、対面にて実施する。対面とオンラインの併用については、受け入れ施設側の方針に従う。
- 実習生受け入れ先へアンケートを実施し、受け入れ可能な病院については受け入れ人数を調査した上で実習を実施する。
- 4月から県内医療施設の学外実習を再開、5月からは全ての学外実習を再開し、従来のカリキュラム通り、対面による実習を実施
※以上の予定であったが、現在の感染状況を鑑み4月16日までは遠隔で実施
- 原則的に学外実習は中止しているが、一部の地域枠学生のみ当該地域での学外実習を行っている。
- 実習先医療機関と協議し、受入れ許可の場合は予定通り実施するが、不許可となった場合や実習先が感染拡大地域等のため移動制限地域となった場合は、県内の他の医療機関や学内実習に振り替えて実施する。

Q3. R3年4月以降の講義の状況について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体		(前回)		国立		公立		私立	
	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
1. 対面授業	17	20.7%	9	11.0%	7	16.3%	1	12.5%	9	29.0%
2. オンライン授業(リアルタイム双方向型)	4	4.9%	14	17.1%	2	4.7%	2	25.0%	0	0.0%
3. オンライン授業(オンデマンド型)	1	1.2%	6	7.3%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
4. 対面とオンラインのハイブリッド	60	73.2%	53	64.6%	33	76.7%	5	62.5%	22	71.0%
計(校)	82		43		8		31			

講義の状況(82大学)



「1. 対面授業」の場合の3密対策 (主な回答)

- 講義室の収容率を60%程度とし、座席指定とする
- 2つの講義室を双方向で通信できるよう整備し、各講義室の収容人数を半数として2部屋に分かれて対面授業を行っている。
- 講義室への収容学生数は通常どおりであるが、マスク着用を義務付けるとともに手洗い・手指消毒の徹底を周知した。なお、発熱や自覚症状があり、学生保健室の指示により欠席した場合は、学校保健安全法による出席停止と同様の欠席取扱いとし、Moodleによる授業配信(補習)を実施する。
- 席と席の間隔を縦横1mあける。必要に応じてアクリル板を設置する。1教室では密となる場合は、2教室に分散して実施。(生講義とLIVE中継を1日毎に交互に実施)
- 学生数に対し、収容人数に余裕のある教室を使用し、座席は間隔を開けて指定席としている。入室する際は、マスク着用、検温、消毒を徹底している。

「2. オンライン授業(リアルタイム双方向型)」の内容 (主な回答)

- Zoomによるリアルタイム双方向型で講義を行い、試験については対面による筆記試験またはレポートによる評価を行う。一部講義ではオンデマンド型を併用する。

「3. オンライン授業(オンデマンド型)」の内容 (主な回答)

- 音声付きパワーポイント資料を基本とするほか、zoom等によるリアルタイム実施など担当教員の裁量で併用可。学生にはLMSで通知する。

「4. 対面とオンラインのハイブリッド」の内容 (主な回答)

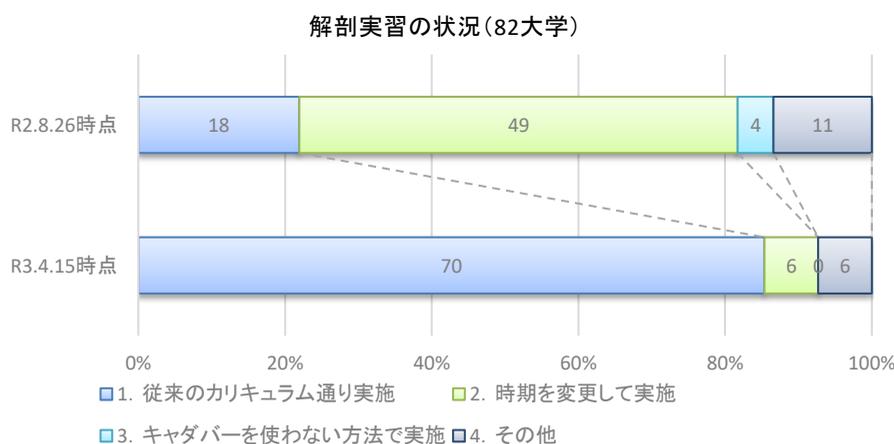
- 春季休業後2週間は帰省等のため県外移動を行っていた学生もいるため、大事を取ってオンラインで実施。その後は3密を回避するため、半数の学生を対面、残り半数を遠隔で受講させるという方法で実施予定。学生間の距離を保った上で1学年を収容できる大教室では、春季休業終了後2週間後から対面方式で実施。
- 1~3学年および6学年については、原則、対面型授業とし、4~5学年については、原則、対面型授業とメディア授業の併用とする。
- 原則的に演習、実習は対面、講義はオンラインにて実施する。
- 1~4学年は、週毎に登校学年、自宅学修学年を分けた分散登校を実施。対面で実施が必要な講義、実習は登校週に実施出来るようカリキュラムを作成した。

- 実験・実習・演習科目を優先して、対面授業を実施。その他の科目については、必要に応じて遠隔授業(リアルタイム双方向型のオンライン授業)を基本とする。
- 各学年とも、2分の1ずつ分散登校させ、対面とオンライン交互に受講させる。
- 対面での授業は、事前に感染対策等を確認し部局長の許可を得て実施する。また、学年ごとに対面および遠隔授業を実施する時間帯を分けるなど、学内における密をなるべく避けられるよう調整する。
- 感染予防策を実施することが可能な授業(実験、実習等を含む)は、対面形式で実施し、受講者数が多い等の理由で感染予防策を実施することが困難な授業(実験、実習等を含む)やオンライン形式の方が教育効果の高い授業については、オンライン形式又はハイブリッド形式で実施

Q4. 解剖実習の状況について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. 従来のカリキュラム通り実施	70	85.4% (22.0%)	35 81.4%	8 100.0%	27 87.1%
2. 時期を変更して実施	6	7.3% (59.8%)	5 11.6%	0 0.0%	1 3.2%
3. キャダバーを使わない方法で実施	0	0.0% (4.9%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
4. その他	6	7.3% (13.4%)	3 7.0%	0 0.0%	3 9.7%
計(校)	82		43	8	31



「1. 従来のカリキュラム通り実施」の開始時期

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立
R3.3月～8月開始	49 70.0%	25 71.4%	6 75.0%	18 66.7%
9月以降開始	20 28.6%	10 28.6%	2 25.0%	8 29.6%
回答なし	1 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.7%
計(校)	70	35	8	27

「2. 時期を変更して実施」の場合の実施時期

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立
当初の予定を遅らせて実施	6 100.0%	5 100.0%	0 0.0%	1 100.0%
当初の予定を早めて実施	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計(校)	6	5	0	1

「4. その他」の内容 (主な回答)

- 対面式の解剖実習を予定している。学生は半数に制限するため、対面実習に入らない回は非対面講義・演習を受講する。
- 2分の1ずつに分けて出校させ、対面で実施。

- 一部をオンラインで行う。
それ以外は、3密を避ける工夫を施し対面で実施。
- クラスを半分に分け、ご献体での解剖を行う班と自宅でバーチャル教材であるビジュアル・ボディを使用する班に分かれる。自宅班用に動画教材を作成し、学修支援システムを介して配信し、操作や課題を指示する。ご献体とバーチャル教材の班は1回ごとに交代する。

Q5.その他の基礎系の実習について(自由記載) (主な回答)

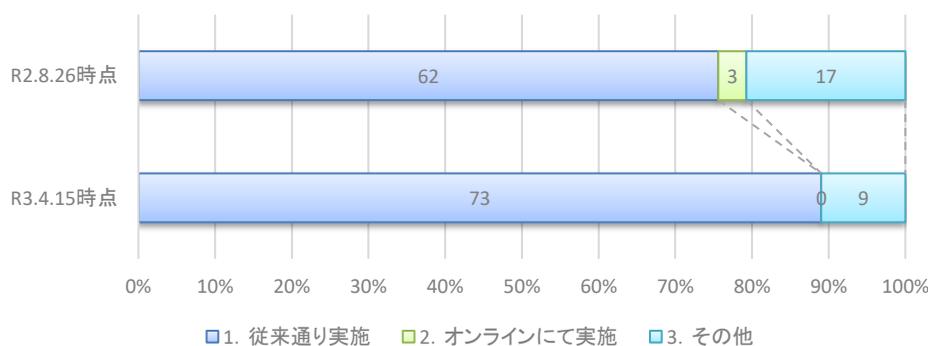
- 全実習ともに例年同様の時期に開始し、内容等も変更はない。
- 解剖学、生化学・生理学等の実習においては、時間数を可能な限り減らすと共に実習室数を可能な限り増やす、あるいは複数のグループ化により人数を減らすことで密度を低下させた上での対面授業実施とする。
- 薬理学実習:学生数を半数にし、同じ実習を2度やる(解剖実習と表裏で実施)。
発生学実習:学生数を半数にし、同じ実習を2度やる(解剖実習と表裏で実施)。
病理学実習:収録配信で実施。
- 組織・病理など顕微鏡を使用する実習は対面にパーテーションを設け、席は一つ置き、2回に分けるなどで実施した。一つのグループで協働で行う実習については検討中(手指消毒の徹底、フェースシールドの使用、会話厳禁など)。
- ・1年次基礎医学体験実習:対面
・3年次病理実習:対面とオンラインのハイブリッド
・3年次細菌学実習:対面とオンラインのハイブリッド
・4年次環境医学・公衆衛生学実習:対面とオンラインのハイブリッド、対面は学外もあり
- 原則として対面で実施する予定であるが、実習室が密になる可能性があるので一学年を2班に分けて、入れ替え制で実施する予定。なお、これに伴い、実習内容が例年より少なくなる可能性があるため、実習内容を厳選し、一部オンライン等も取り入れて実施したいと考えている。
- 実習での説明内容を事前に音声付きのパワーポイント資料で配付するなど、実習での対面時間を短縮している。また、本学の感染症予防で定められた座席間の距離が確保できるよう、学生班分けによる異なった実習日の設定、複数の実習室に分けての実施、一部オンラインの併用等の対応を予定としている。

Q6. 定期試験の対応について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. 従来通り実施	73 89.0%	(75.6%)	35 81.4%	8 100.0%	30 96.8%
2. オンラインにて実施	0 0.0%	(3.7%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
3. その他	9 11.0%	(20.7%)	8 18.6%	0 0.0%	1 3.2%
計(校)	82		43	8	31

定期試験の対応(82大学)

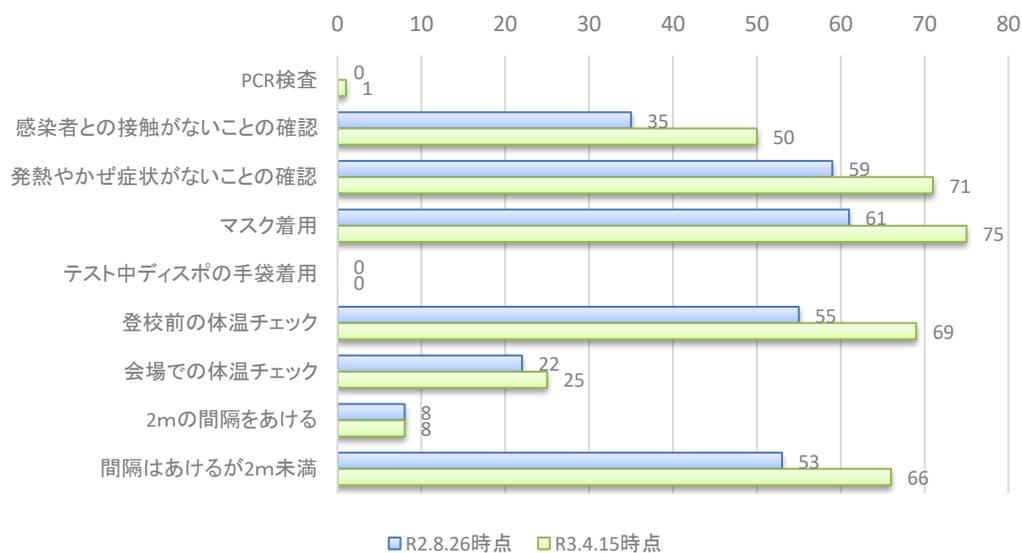


「1. 従来通り実施」の場合の感染対策(複数回答あり)

※割合は全大学(82大学)を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立 (校)
PCR検査	1 1.2%	0	0	1
感染者との接触がないことの確認	50 61.0%	27	5	18
発熱やかぜ症状がないことの確認	71 86.6%	34	7	30
マスク着用	75 91.5%	36	8	31
テスト中ディスプレイの手袋着用	0 0.0%	0	0	0
登校前の体温チェック	69 84.1%	33	7	29
会場での体温チェック	25 30.5%	5	6	14
2mの間隔をあける	8 9.8%	2	2	4
間隔はあけるが2m未満	66 80.5%	34	6	26

定期試験の感染対策(82大学)



その他実施していること(主な回答)

- 隣席との間にアクリル板を設置
- ロスナイ換気の24時間稼働、講義室内のドア・窓等の常時開放など
- 3密にならないように試験会場を分散して実施する予定である。
- 事前にCOVID19に関するオンライン講義の受講とレポート提出を必須とし、十分な知識と行動規範を理解させる
- 発熱等の症状がみられる場合には、登校を禁止し、別日に試験を受験させる
- 手指消毒用アルコールを会場前に設置、試験終了後に各自機の消毒を実施
- ワクチン接種
- 試験当日を含む4日間の体温報告をキャンパス入構の条件にしている。また、状況に応じて遠隔での試験に対応できるように教員に依頼している。

「3.その他」の内容(主な回答)

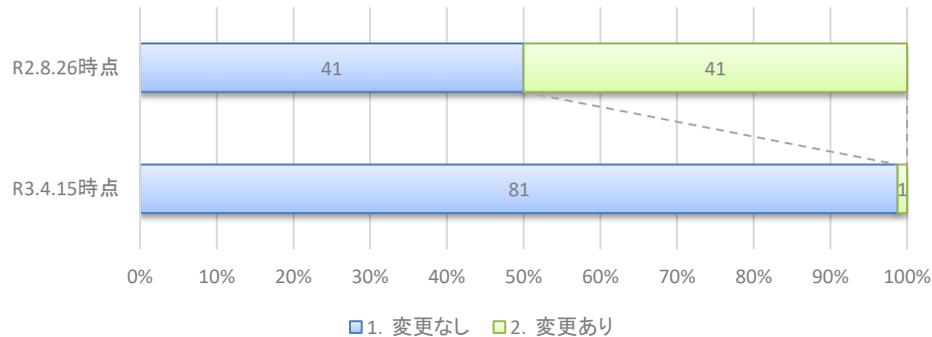
- 授業によってオンラインか対面かを検討中である。
- オンラインと、従来通りの対面型試験を科目責任者が選択し、実施する予定である。
対面型試験の場合は、概ね収容率50%の講義室の割り当て、間隔を空け座席指定、換気、机上等の消毒、手指消毒、マスク着用等の感染対策を実施
- 従来通りの試験と、オンラインでの試験(レポート課題等を含む)を併用している。対面での試験は、感染対策について事前に確認し、部局長の許可が得られた場合のみ実施可能としている。

Q6-1. 定期試験の実施時期の変更

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. 変更なし	81	98.8% (50.0%)	42 97.7%	8 100.0%	31 100.0%
2. 変更あり	1	1.2% (50.0%)	1 2.3%	0 0.0%	0 0.0%
計(校)	82		43	8	31

定期試験の実施時期の変更(82大学)



「変更あり」の内容

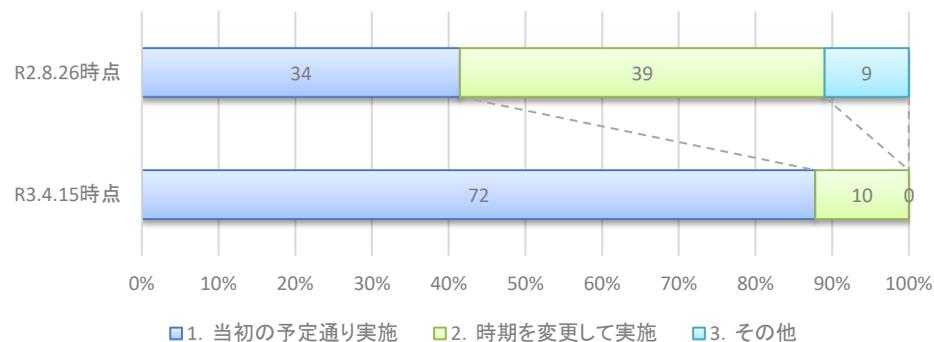
- 試験日程については、今後調整予定。

Q7. CBTの対応について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. 従来予定通り実施	72	87.8% (41.5%)	36 83.7%	8 100.0%	28 90.3%
2. 時期を変更して実施	10	12.2% (47.6%)	7 16.3%	0 0.0%	3 9.7%
3. その他	0	0.0% (11.0%)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
計(校)	82		43	8	31

CBTの対応(82大学)



「1. 従来予定通り実施」の実施時期

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立
R3年4月～8月に実施	15 20.8%	4 11.1%	1 12.5%	10 35.7%
R3年9月～12月に実施	49 68.1%	29 80.6%	6 75.0%	14 50.0%
R4年1月～3月に実施	8 11.1%	3 8.3%	1 12.5%	4 14.3%
計(校)	72	36	8	28

「2. 時期を変更して実施」の場合の実施時期

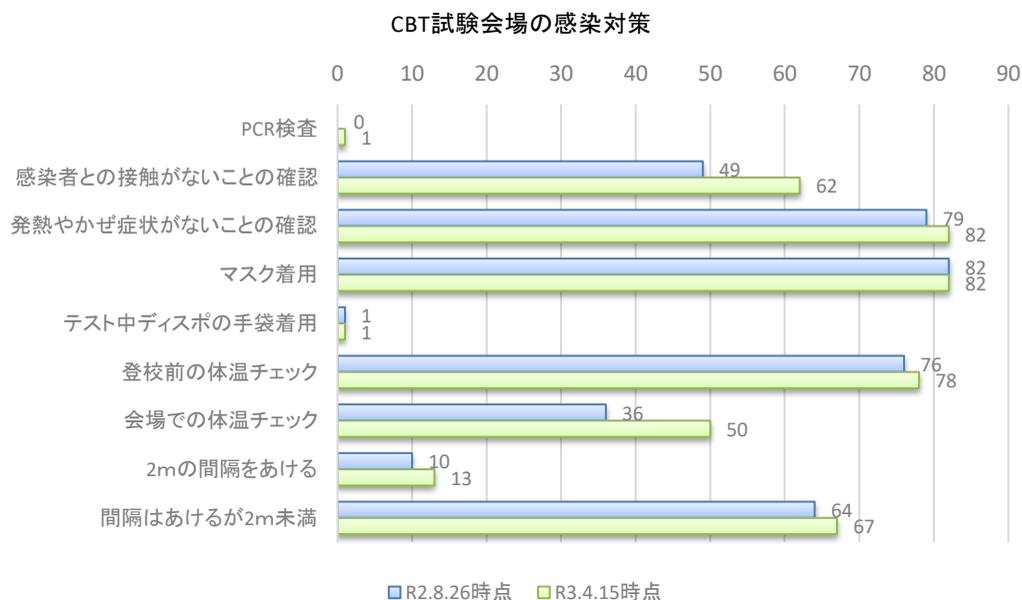
※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体		国立		公立		私立	
当初の予定を遅らせて実施	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
当初の日程を早めて実施	2	20.0%	1	14.3%	0	0.0%	1	33.3%
当初の日程を延長して実施	8	80.0%	6	85.7%	0	0.0%	2	66.7%
計(校)	10		7		0		3	

Q7-1. CBT試験会場の感染対策(複数回答あり)

※割合は全大学(82大学)を100とした場合の%

	全体		国立	公立	私立 (校)
PCR検査	1	1.2%	0	0	1
感染者との接触がないことの確認	62	75.6%	36	6	20
発熱やかぜ症状がないことの確認	82	100.0%	43	8	31
マスク着用	82	100.0%	43	8	31
テスト中ディスプレイの手袋着用	1	1.2%	0	1	0
登校前の体温チェック	78	95.1%	41	8	29
会場での体温チェック	50	61.0%	21	6	23
2mの間隔をあける	13	15.9%	2	5	6
間隔はあけるが2m未満	67	81.7%	40	3	24



その他実施していること (主な回答)

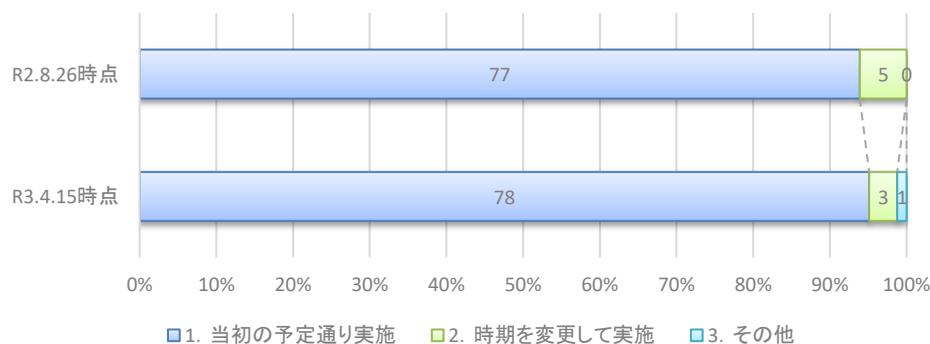
- 2日に分けて、密を避けて実施。
- サーキュレータ、空気清浄機による換気、二酸化炭素濃度計による厳格な測定。外窓を開けての換気。休憩場所(別室)の確保。私語の禁止。
- 飛沫防止アクリル板の設置
- ワクチン接種
- 受験生を半分に分け、2日間でCBT試験を行う。受験者の間には仕切り版を左右に設ける。使用後はアルコール綿でキーボードを拭く。
- 試験中30分に1回の換気、休憩時間の換気、手指消毒の徹底。なお、会場での体温チェックは必要と判断した者のみ。
- 試験室を2部屋に分散させる。席の前と横(机上)に飛沫防止のパーテーションを設置する。控室を分散させる。休憩時間等に換気を行う。
- 手指消毒の徹底(試験室前に設置)、換気、2週間以内の制限地域への移動の有無の確認、部屋の構造上学生間に衝立あり。

Q8. 臨床実習前OSCEの対応について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体			国立		公立		私立	
	数	割合	(前回)	数	割合	数	割合	数	割合
1. 従来 of 予定通り実施	78	95.1%	(93.9%)	42	97.7%	7	87.5%	29	93.5%
2. 時期を変更して実施	3	3.7%	(6.1%)	1	2.3%	0	0.0%	2	6.5%
3. その他	1	1.2%	(0.0%)	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%
計(校)	82			43		8		31	

臨床実習前OSCEの対応(82大学)



「1. 従来 of 予定通り実施」の実施時期

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体			国立		公立		私立	
	数	割合		数	割合	数	割合	数	割合
R3年4月～7月に実施	0	0.0%		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
R3年8月～12月に実施	67	85.9%		37	88.1%	7	100.0%	23	79.3%
R4年1月～3月に実施	10	12.8%		4	9.5%	0	0.0%	6	20.7%
回答なし	1	1.3%		1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%
計(校)	78			42		7		29	

「2. 時期を変更して実施」の場合の実施時期

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体			国立		公立		私立	
	数	割合		数	割合	数	割合	数	割合
当初の日程を早めて実施	2	66.7%		1	100.0%	0	0.0%	1	50.0%
当初の日程を延長して実施	1	33.3%		0	0.0%	0	0.0%	1	50.0%
計(校)	3			1		0		2	

「3. その他」の内容

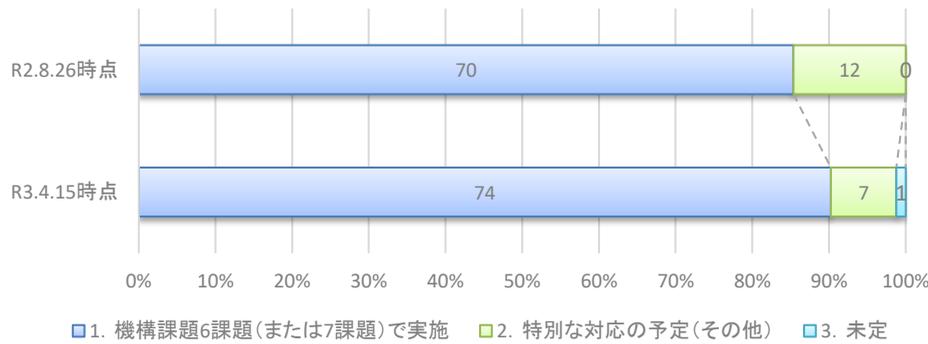
- 日程・実施方法について検討中

Q8-1. 臨床実習前OSCEの課題について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体			国立		公立		私立	
	数	割合	(前回)	数	割合	数	割合	数	割合
1. 機構課題6課題(または7課題)で実施	74	90.2%	(85.4%)	37	86.0%	8	100.0%	29	93.5%
2. 特別な対応の予定	7	8.5%	(14.6%)	5	11.6%	0	0.0%	2	6.5%
3. 未定	1	1.2%	(0.0%)	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%
計(校)	82			43		8		31	

臨床実習前OSCEの課題(82大学)



「2. 特別な対応」の内容 (主な回答)

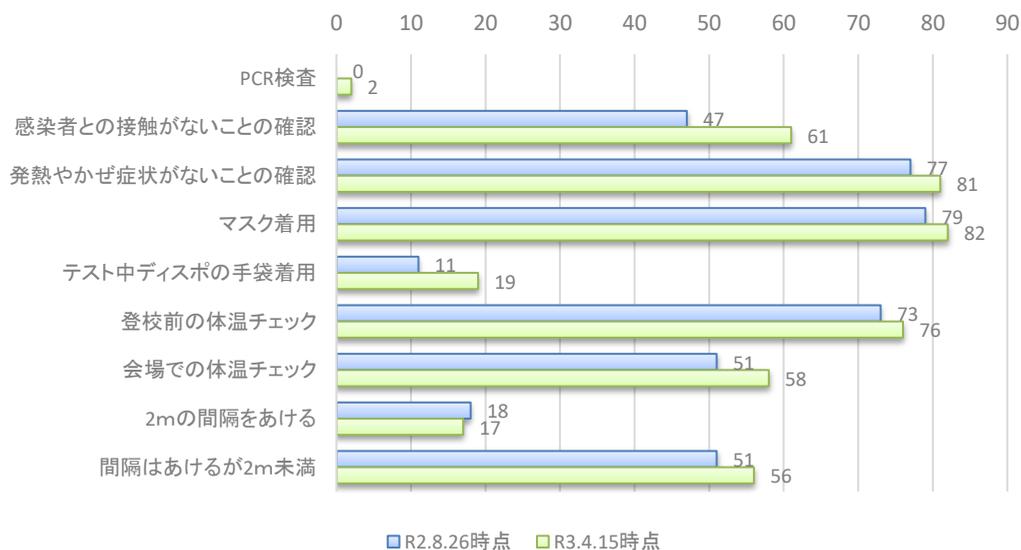
- COVID-19感染状況により、5課題に変更の場合がある。
- GATOが今年度どのような対応を許容するかによって本学の対応も決定する。
- 本学で感染症対策を実施しやすい課題を選択し実施。
- 機構課題6課題に加え、感染予防に関する大学独自課題1課題の実施を検討。

Q8-2. 臨床実習前OSCE試験会場の感染対策(複数回答あり)

※割合は全大学(82大学)を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立 (校)
PCR検査	2 2.4%	0	0	2
感染者との接触がないことの確認	61 74.4%	36	6	19
発熱やかぜ症状がないことの確認	81 98.8%	43	8	30
マスク着用	82 100.0%	43	8	31
テスト中ディスポの手袋着用	19 23.2%	9	2	8
登校前の体温チェック	76 92.7%	39	8	29
会場での体温チェック	58 70.7%	25	7	26
2mの間隔をあける	17 20.7%	6	3	8
間隔をあけるが2m未満	56 68.3%	32	5	19

臨床実習前OSCE試験会場の感染対策(82大学)



その他実施していること (主な回答)

- 評価者を2名から1名に変更し、3密を回避している。窓を開けるなどして、空気の入替えを適宜行っている
- 医療面接はTV会議システムを使い、模擬患者は別室で応答。
- 試験前2週間の体温・体調チェックシートの提出

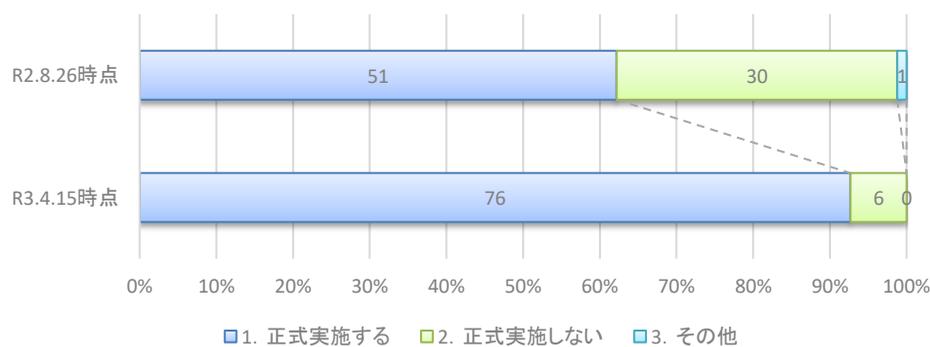
- 身体診察模擬患者をレサシアン等の全身人形で代替して実施。
- 試験室や待機室の常時換気。各課題受験前後での手指消毒励行。病院エリアは使用せず全て学部エリアで実施する。
- 受験者、模擬患者はフェイスシールドと手袋を着用する。評価者と受験者の間及び医療面接模擬患者と受験者の間の机上に飛沫防止の亚克力板を設置する。受験者、模擬患者等の控室を分散させる。休憩時間等に換気を行う。
- 手指消毒の徹底(試験室前に設置)、換気、2週間以内の制限地域への移動の有無の確認、ドアノブ等、学生が接触した場所の清拭。身体診察模擬患者は学内者から選出し、医療面接は模擬患者との間にパーティションを設置した。

Q9. 臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)の正式実施に参加しますか？

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体		(前回)		国立		公立		私立	
1. 正式実施する	76	92.7%	62.2%	40	93.0%	7	87.5%	29	93.5%	
2. 正式実施しない	6	7.3%	36.6%	3	7.0%	1	12.5%	2	6.5%	
3. その他	0	0.0%	1.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
計(校)	82			43		8		31		

Post-CC OSCEの正式実施への参加(82大学)



「2.正式実施しない」の内容 (主な回答)

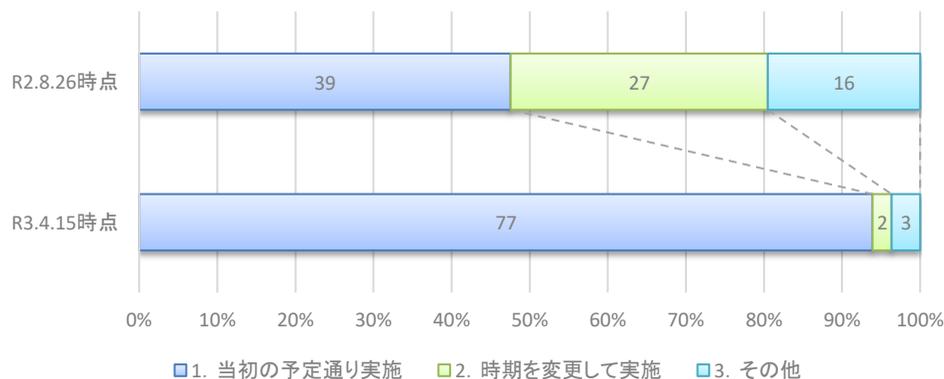
- 大学独自課題のみ実施予定
- 正式実施の可否について検討中

Q9-1. Post-CC OSCEの対応について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体		(前回)		国立		公立		私立	
1. 従来予定通り実施	77	93.9%	47.6%	41	95.3%	7	87.5%	29	93.5%	
2. 時期を変更して実施	2	2.4%	32.9%	1	2.3%	0	0.0%	1	3.2%	
3. その他	3	3.7%	19.5%	1	2.3%	1	12.5%	1	3.2%	
計(校)	82			43		8		31		

Post-CC OSCEの対応(82大学)



「1. 従来の予定通り実施」の実施時期

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立
R3年4月～8月に実施	32 41.6%	12 29.3%	0 0.0%	20 69.0%
R3年9月～12月に実施	44 57.1%	28 68.3%	7 100.0%	9 31.0%
R4年1月～3月に実施	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
回答なし	1 1.3%	1 2.4%	0 0.0%	0 0.0%
計(校)	77	41	7	29

「2. 時期を変更して実施」の場合の実施時期

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立
当初の日程を延長	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 100.0%
当初の日程を短縮	1 50.0%	1 100.0%	0 0.0%	0 0.0%
計(校)	2	1	0	1

「3. その他」の内容 (主な回答)

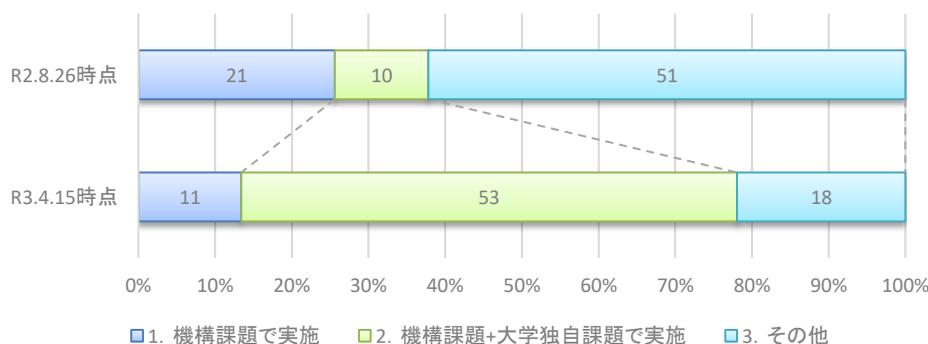
- 感染症対策のため、2日間に分けて実施予定。非接触型で実施(オンライン医療面接、シミュレーターの利用)。
- 日程・実施方法について検討中

Q9-2. Post-CC OSCEの課題について

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. 機構課題で実施	11 13.4%	(25.6%)	5 11.6%	2 25.0%	4 12.9%
2. 機構課題+大学独自課題で実施	53 64.6%	(12.2%)	29 67.4%	3 37.5%	21 67.7%
3. その他	18 22.0%	(62.2%)	9 20.9%	3 37.5%	6 19.4%
計(校)	82		43	8	31

Post-CC OSCEの課題(82大学)



「1. 機構課題で実施」の場合の課題数

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立
2課題	3 27.3%	2 40.0%	1 50.0%	0 0.0%
3課題	8 72.7%	3 60.0%	1 50.0%	4 100.0%
計(校)	11	5	2	4

「2.機構課題+大学独自課題で実施」の場合の各課題数

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体		国立		公立		私立	
機構課題1課題+大学独自課題1課題	2	3.8%	1	3.4%	1	33.3%	0	0.0%
機構課題2課題+大学独自課題1課題	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%
機構課題2課題+大学独自課題2課題	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	2	9.5%
機構課題3課題+大学独自課題1課題	6	11.3%	5	17.2%	0	0.0%	1	4.8%
機構課題3課題+大学独自課題2課題	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%
機構課題3課題+大学独自課題3課題	39	73.6%	22	75.9%	2	66.7%	15	71.4%
機構課題3課題+大学独自課題4課題	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
機構課題3課題+大学独自課題5課題	1	1.9%	1	3.4%	0	0.0%	0	0.0%
機構課題3課題+大学独自課題6課題	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%
計(校)	53		29		3		21	

「3. その他」の内容 (主な回答)

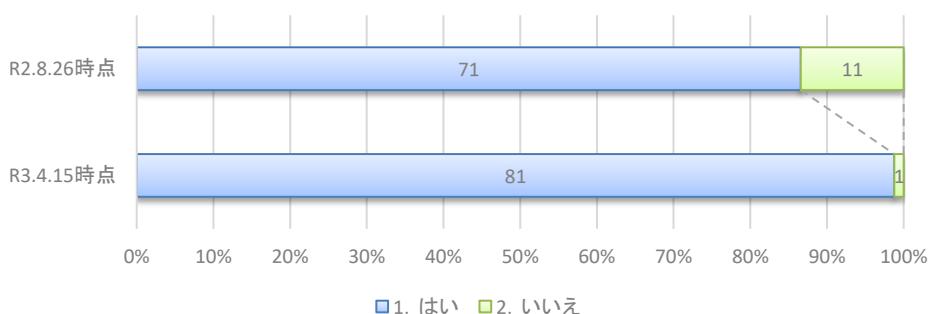
- 感染状況を見ながら検討する。
- 大学独自課題8課題で実施予定である。
- 検討中。
- 共通課題は使わず、大学独自課題のみの3課題での実施を申請している。

Q10. 学生に感染者が出た場合の対応手順は決まっていますか？

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体		国立		公立		私立	
		(前回)						
1. はい	81	98.8% (86.6%)	43	100.0%	7	87.5%	31	100.0%
2. いいえ	1	1.2% (13.4%)	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%
計(校)	82		43		8		31	

学生に感染者が出た場合の対応基準は決まっていますか？
(82大学)



「1. はい」の内容 (主な回答)

- 所属の教務担当・保健管理センター・学務部が協力し、保健所の指示を受けながら濃厚接触者の特定や行動履歴等を追跡する。また感染状況のステージに応じて対応する。
- 対応ガイドラインを作成している。具体的には、感染者か濃厚接触者か、学生か教員か、対面型授業・実習参加者かどうか等場合分けし、さらに感染者の人数によって場合分けし、授業・実習等のオンライン代替実施等で対応するものである。
- 出席停止基準を設けており、学生が感染した場合、感染が疑われる場合等は医学部事務室に連絡する。また、学業復帰の際は、PCR検査による陰性確認を必須とする。
- 教務に連絡が入り次第、本学新型コロナウイルス対策本部及び保健管理センターに状況を報告し、保健管理センターから当該学生から聞き取り調査及び出席停止等の判断を行う。
- 学年内で発生した場合は、保健所と相談の上当該学年を自宅待機とする。複数学年で発生した場合は、保健所と相談の上当該学年もしくは学部全体を自宅待機とする。

- 学生は各事務課に速やかに連絡。当該学年は対面講義の中止・登校禁止とし、全面在宅学習に切り替える。新たな感染者がいなければ、感染者が出席停止となった後14日間、学内での感染伝播のリスクを考慮し、期間の延長を検討する。
- 感染の疑いがある場合、濃厚接触の疑いがある場合は、学務課と保健管理センターに届け出を行い、PCR検査を受けてもらう。感染した場合及び濃厚接触者に該当した場合は、学務課と保健管理センターに連絡し、これまでの行動履歴をつけ、学務課に提出させ、大学内で情報共有を行う。また、発症日から2週間は自宅待機とし、その間、健康観察フォームにて毎日報告させる。
- 安全が確認されるまではキャンパス内に立ち入りを禁止し、不要不急の外出は避けて自宅待機させる。遠隔講義は継続し、対面での講義・実習等は中止する。保健所等の調査により濃厚接触者の特定等、状況の把握をおこない、各会議等により方針を決定する。

自由記載の内容（主な回答）

- 臨床実習においては、学生に感染者が出た場合のフローとは別に対応マニュアルを作成し対応している。
- 大学全体で定められており、発生後は大学担当部局の指示により、高リスク接触者の特定・行動指示や構内消毒等が行われる。

Q11. 医師臨床研修マッチング等に当たっての自大学医学生の病院見学の対応について（主な回答）

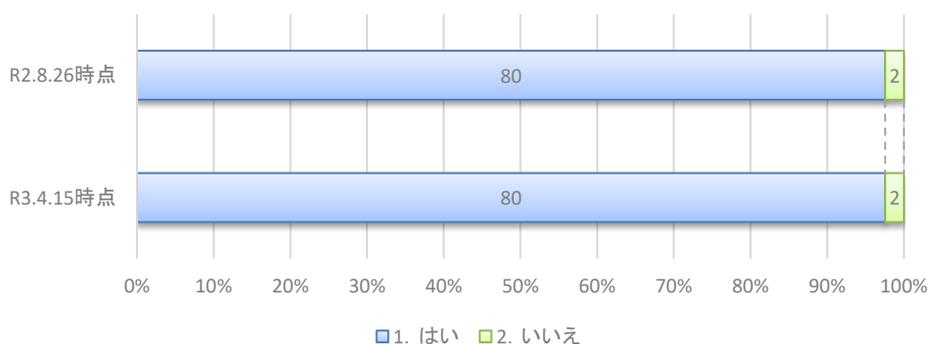
- 病院見学については学生に自粛するよう要請している。就職活動の一環として実施される病院見学については、学生や実習診療科と相談しながら、参加の可否を判断している。附属病院が定めている国内特定地域にある病院に見学に行く場合は、市内に戻り次第2週間自宅で経過観察を実施。体調等に変化がないことを確認してから実習への復帰を認めている。
- 現時点では病院見学等における制限は行っていない。
- 非常事態宣言下の都県への見学は原則禁止している。それ以外の状況下では病院見学は可だが、附属病院での実習開始前には2週間の行動履歴と健康観察票を提出させ、診療科の許可をもらってから実習を再開している。必要に応じてPCR（自費）を実施。
- 先方の病院が受け入れ可としていれば、従来通り見学させている。
- コロナ禍の状況及び当該病院でのクラスター発生状況等を踏まえ、個々の案件ごとに慎重に判断する。なお、コロナ禍の状況によっては、当該病院での外来や病棟等への立ち入りや、患者との接触を控えた上で実施する等、本学学生が感染しない、感染させないように徹底している。
- 都道府県の感染者数等による大学独自に定めた基準で高度警戒地域を定め、当該地域に所在する病院への見学は、マッチングまで1年を切った学生のみ申請により許可する。見学時の旅行期間は一泊二日までとする。
- 原則として講義・実習期間中は認めていないが、春休みについては休み明けの講義・実習を2週間オンライン対応することで見学にいくことを認めている。ただし、できるだけオンライン見学会への参加を推奨している。
- 見学先の受け入れ状況を確認後、事前に大学及び指導教員に許可申請して、許可を得られた場合のみ参加できる。本学が定める感染注意地域に行った場合は、一定期間の自宅待機または検査を要する。また、学年により許可の時期・条件等は異なる（医学科4年生以下は原則禁止）。
- 感染拡大地域（直近7日間に10万人当たり15人以上）となる地域へ出向いての病院見学は、可能な限り日程調整を学生に依頼し、調整困難な場合は2週間の待機期間の代替措置もしくはウイルス検査により対応している。
- 6年生は県内・県外共に許可している。感染者が多く出ている地域に移動した場合の対応はその時々感染状況にもよるが、現時点は帰県後2週間は厳格な体調管理を行い、実習参加の際は「健康管理記録」で指導教員のチェックを受けることとなっている。
- 最終学年（医学科第6学年）の学生の就職活動（採用説明会への参加、病院等の見学、採用試験・面接の受験、採用内定後の手続き等）及び最終学年以外の学生の病院等の見学は、感染拡大防止に係る対策・配慮の徹底を条件に、特に制限しない。

Q12. 学生に体温測定や体調報告を義務付けていますか？

※割合は各回答計を100とした場合の%（ ）は前回の%

	全体		（前回）		国立		公立		私立	
1. はい	80	97.6%	(97.6%)	42	97.7%	7	87.5%	31	100.0%	
2. いいえ	2	2.4%	(2.4%)	1	2.3%	1	12.5%	0	0.0%	
計(校)	82			43		8		31		

学生に体温測定や体調報告を義務付けていますか？(82大学)



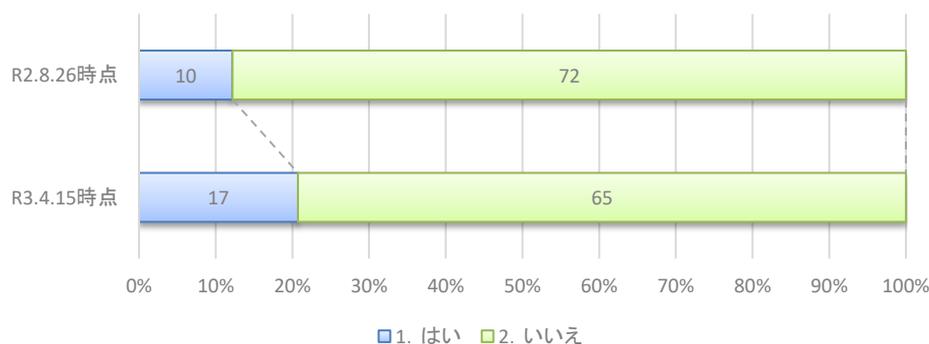
「1. はい」の内容 (主な回答)

- 大学入構時に入口に設置している検温器で体温を測定し、基準以下であることを確認し入構する。また、臨床実習生は実習科へ日々の検温、体調不良の有無について報告を義務付けている。
- 体温測定・体調報告を行って問題なかった学生にのみ、学内への入構を許可するシステムを全学で採用している。今後医学部生の体温・体調報告データについて独自に収集・確認する方法等を検討している。風邪の症状、または37.5度以上の発熱がある場合には実習や病院見学等に参加できないこととしている。
- 全学生が登校前に体温測定を行う。臨床実習対象学年については毎朝9時までに体温及び体調をネットワーク上で報告することとし、忘れた学生の実習参加は認めない。
- 各自で体温計を準備し、毎日検温をし、「健康チェックシート」に記録をとる。発熱(約37℃以上など平熱および体調を考慮)、嗅覚・味覚障害、下痢、嘔吐がある場合は、各事務課に連絡をしたうえで講義・実習は欠席し、外出を控え自宅静養する。場合によっては学生保健室から聞き取りを行う。
- 毎日体温チェックを行い、体調不良の場合は、Formsにて体調報告する。臨床実習学生は体温・体調・感染流行地域への移動履歴を毎日Formsで報告し、その内容を教員が毎日確認する。
- 健康管理チェック表を用いて、学生各自による毎日の健康管理(チェック表への記入)と教員が確認を行っている。
- 学生は毎日起床後に体温測定をし、12:00までにweb上のシステムにて体温、体調報告をすることとしている。
- 1)起床時に体温を計測し、8時30分までに「学生の体温管理システム」を使用し報告。通学の可否については、システムの指示に従う。
2)体温や症状を入力後、システムにより「本日は登校せず、自宅で療養し、9時30分までに専用メールアドレス宛に連絡を入れてください。」と指示された場合は、すみやかに保健管理センターの専用アドレス宛てに報告。
3)解熱後48時間は通学せず、1日2回の検温等により体調管理を徹底。なお、検温結果は保健管理センターの専用メールアドレスに報告。
4)通学可能となるのは、解熱後48時間経過した後。
5)授業を受ける際に、チェックシートに体温等を記載させている。

Q13. 学生にPCR検査の実施を義務付けていますか？

	※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%				
	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. はい	17	20.7% (12.2%)	6 14.0%	2 25.0%	9 29.0%
2. いいえ	65	79.3% (87.8%)	37 86.0%	6 75.0%	22 71.0%
計(校)	82		43	8	31

学生にPCR検査の実施を義務付けていますか？(82大学)



「1. はい」の内容（主な回答）

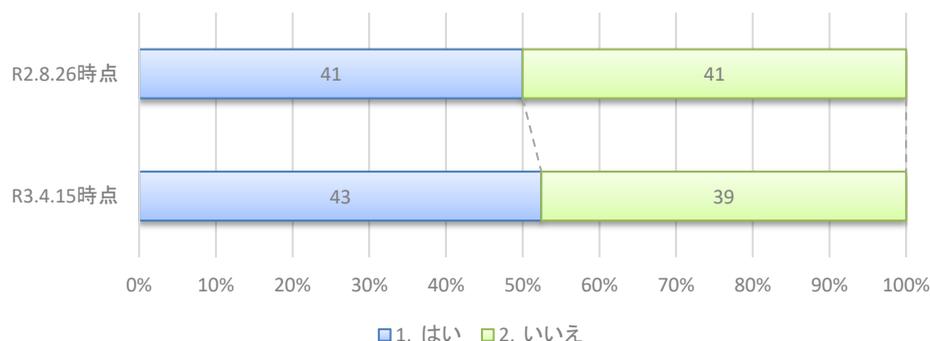
- 臨床実習中の学生に対して体調不良が出現した場合にその報告を義務づけ、大学病院でPCR検査を受けることができる旨を周知し、受検することを推奨している。
- 長期休暇明けの登校となる場合には、登校前日までに陰性確認ができるよう検査を実施。陰性の学生のみ登校可能としている。
- 臨床実習開始の5日前まで課外活動参加を希望する学生については、事前登録とし、5日間は健康観察期間とし、唾液によるPCR検査を受ける。
- 臨床実習対象の学生は実習1週間前から実習終了まで週2回のPCR検査を義務付ける。検査は病院施設ではなく学部内で実施する。
- 臨床実習や臨地実習で関連病院や附属病院での実習を行う学生に対してのみ、実習開始前のPCR検査を行うこととしている。

Q14. 学生のアルバイトに制限を設けていますか？

※割合は各回答計を100とした場合の%（ ）は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. はい	43 52.4%	(50.0%)	27 62.8%	3 37.5%	13 41.9%
2. いいえ	39 47.6%	(50.0%)	16 37.2%	5 62.5%	18 58.1%
計(校)	82		43	8	31

学生のアルバイトに制限を設けていますか？(82大学)



「1. はい」の内容（主な回答）

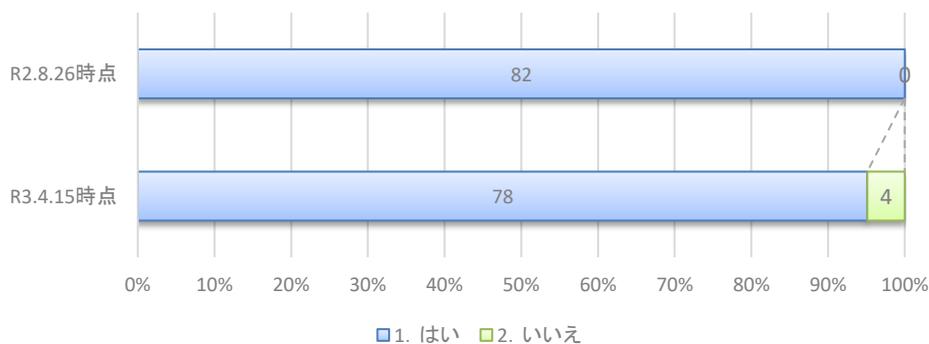
- 原則3密を避けることを前提として、学部長の許可を得た上で従事を認めることとしている。また、臨床実習を行う学年の学生に対し、酒類提供を伴う飲食店でのアルバイトの自粛を要請している。従事していた学生には面談を実施し、経済状況等を聞き取り困窮する場合は相談するよう説明している。
- アルバイトについて：飲食店・コンビニなどの小売店・カラオケ店（カラオケボックス）・飲み屋など不特定多数が集まる場所でのアルバイトは不可。家庭教師もウェブを利用したものを除いては不可。
- 原則禁止、届け出制により家庭教師・塾講師の一定条件に当てはまる場合のみ可
- 希望する学生は学生部へ所定のアルバイト許可申請書を提出し、承認を得たアルバイトのみ許可。病院実習期間のアルバイトは禁止。
- 飲食店・接客を伴うアルバイトは自粛を促している。ただし、臨床実習を行う学生は原則禁止としている。
- 接待を伴う飲食店、カラオケボックス、ライブハウス及び適切な感染防止対策（消毒液の配置・店員のマスク着用・換気・3密を避ける対策など）が講じられていない店舗や施設でのアルバイトは禁止とする。
- 自らの感染予防実施に加え、3密回避等の感染予防策が講じられた店舗等でのアルバイトを選択するよう要請している。接待を伴う飲食業でのアルバイトは、コロナ発生以前より禁止している。

Q15. 学生の課外活動を制限していますか？

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体		(前回)		国立		公立		私立	
1. はい	78	95.1%	(100.0%)	42	97.7%	6	75.0%	30	96.8%	
2. いいえ	4	4.9%	(0.0%)	1	2.3%	2	25.0%	1	3.2%	
計(校)	82			43		8		31		

学生の課外活動を制限していますか？(82大学)



「1. はい」の内容 (主な回答)

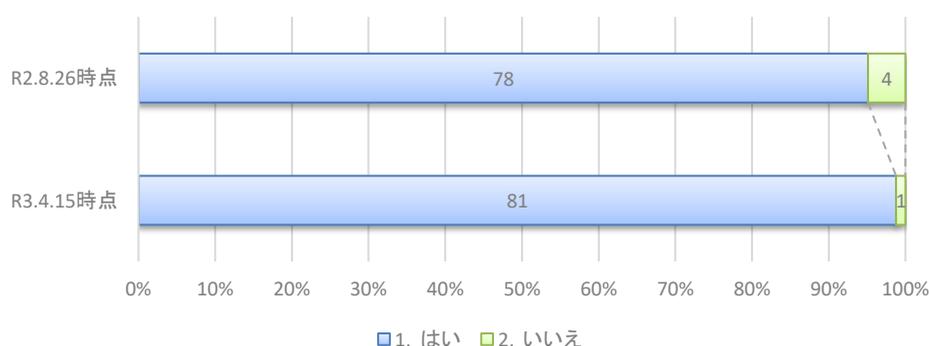
- 大学のBCPLレベルに応じ、レベル2以上の場合是一律禁止、1の場合は学生団体自身で考えた感染対策を大学が許可したうえで活動を認めている。
- 活動の承認を得るには、学生部長が行う注意喚起講習に参加、課外活動再開計画書の申請、学生部長が行う確認テストに合格することが必要
- 附属病院と隣接しているキャンパス内での課外活動は原則土日祭日のみの実施としている。その他の課外活動については、課外活動ガイドラインに従う。
- 感染予防及び公平性の観点から全面的に禁止している。
- オンライン活動のみ許可している。
- 飲食を伴う集会の禁止、高度警戒地域への活動は原則禁止、宿泊を伴う合宿及び登山等の活動の禁止、3密を避けられない屋内活動は禁止。学外活動申請書によって感染対策を報告させる。
- 移動制限のかかっている都道府県での対外試合等や、移動制限のかかっている都道府県にある大学等の出場する対外試合等への参加や主催する大会等への出場は禁止としている。
- 課外活動はすべて禁止中であるが、今後は感染拡大状況等を勘案しながら感染予防対策を徹底したうえで、新入生勧誘活動を含めて、段階的な部活動再開を検討中。
- 対外試合の禁止、外部講師の禁止等学外の人との接触を避ける。外部との接触を伴う活動については、医学部学生生活担当WGでの承認が必要。
また、構内でのゾーニングを行い、病院での実習生とそれ以外の学生は感染リスクを避けるため一緒に課外活動を行うことはできない。
- 臨床実習開始前2週間から終了後2週間までは、オンライン以外の課外活動は禁止
- 臨床実習生においては、部活動を禁止している。臨床実習がない1~4年生においては、部活動での3密となる活動の禁止と時間制限を課しているほか、2週間以内に制限地域に立ち入った者や該当地域からの来訪者と濃厚接触した者の参加を禁止している。なお、県外団体との合同練習や試合や宿泊を伴う活動の場合の許可申請制を設けている。
- サークル活動計画表を提出させ、認められた内容のみ活動を許可している。また、感染者数の多い地域を行き来した学生には2週間の活動待機を命じている。

Q16. 学生の飲み会等を制限していますか？

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体		(前回)		国立		公立		私立	
1. はい	81	98.8%	(95.1%)	43	100.0%	7	87.5%	31	100.0%	
2. いいえ	1	1.2%	(4.9%)	0	0.0%	1	12.5%	0	0.0%	
計(校)	82			43		8		31		

学生の飲み会等を制限していますか？(82大学)



「1. はい」の内容 (主な回答)

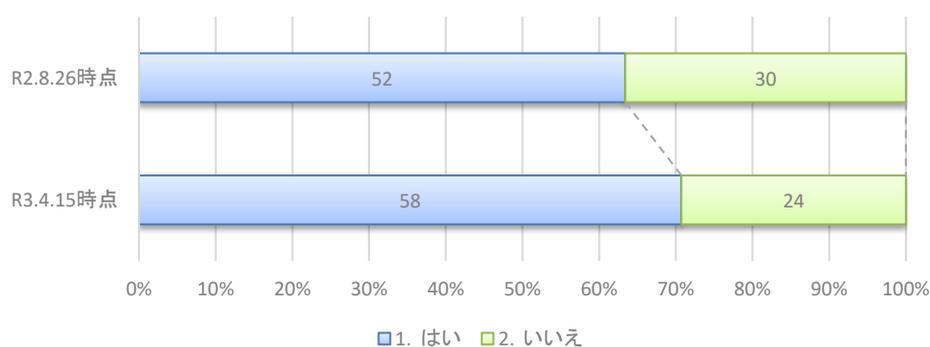
- 会食は、家族または4名までとし、感染対策を十分に実施している飲食店に限定している。また、県外在住者との会食は控えるよう指導している。
- 小ラウンジで他者と共に食事を摂る場合には声は出さずに、終了後は速やかにマスクを着用する(寮の自室内で1人で摂る場合を除く)。外食は普通の飲食店を含めて不可。ただし、テイクアウトのための短時間の立ち寄り可。
- 緊急事態宣言下では禁止。緊急事態宣言以外の期間でも少人数での会食を除き禁止している。
- 臨床実習中の学生は、附属病院の行動方針遵守のため、行動方針対象者同士(4人以内)及び同居家族による、2時間程度までの食事会のみ可
- 会食を含め飲み会は一律に禁止。
- 「5人以上」または「2時間以上」での宴会・飲み会・会食を禁止している。
- 4人以上の会食(同居家族での会食は除く)は一切禁止。また、感染拡大予防ガイドラインを遵守していない飲食店や、居酒屋、カラオケ、ライブハウスなどの感染リスクの高い場所へ出入りは、人数に関わらず一切禁止。
- 大人数、普段顔を合わせないメンバー、長時間の会食は行わない。特に、繁華街での会食は強く自粛を要請する。歓送迎会や同窓会等であっても、会食を伴う催しは開催しない。
- 同居している家族以外との食事会や懇親会は原則禁止。
- 臨床実習生においては、飲み会等を禁止している。1~4年生においては、飲み会の人数制限を課している。
- 歓楽街や接待を伴う店での飲食はもとより、4人以上での飲食は禁止している。また、飲食の際にも会話の際はマスクの着用を義務付けている。

Q17. 学生の県外への移動制限を設けていますか？

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. はい	58	70.7% (63.4%)	37 86.0%	4 50.0%	17 54.8%
2. いいえ	24	29.3% (36.6%)	6 14.0%	4 50.0%	14 45.2%
計(校)	82		43	8	31

学生の県外への移動制限を設けていますか？(82大学)



「1. はい」の内容（主な回答）

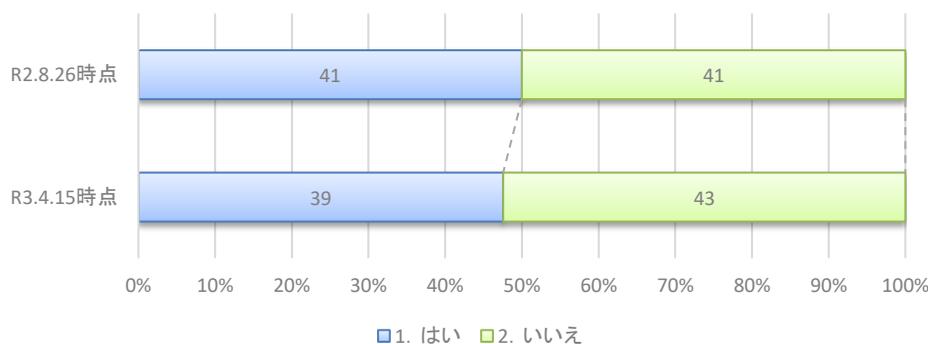
- 緊急事態宣言下の都県への移動は自粛を要請している。
- 旅行は国内外を問わず禁止。ただし、どうしても県外への移動が必要な場合には事前に相談すること。BSLなどカリキュラム上の講義・実習の場合には教務委員会及び科目責任者の指示に従えば事前の相談は不要。外出も日常生活必需品の購入など、必要不可欠なこと以外は避ける。
- 移動制限対象地域(直近1週間の人口10万人あたりの新規感染者15.0以上および外出自粛を要請している都道府県)を設けている。
- 旅行・宿泊(帰省は除く)は一切禁止。
- 原則県外移動禁止。但し、就職試験、面接、USMLE試験等の進路に関わる場合、予め指導教員を通じて部局長の許可を得る。帰国後、14日間の自宅待機、またはPCR検査。
- 臨床実習学生については当大学病院が指定する感染流行地域へ移動した場合、病院エリアでの臨床実習に14日間参加できない。
- 感染拡大地域(直近7日間に10万人当たり15人以上)への移動は自粛、感染拡大地域に該当かつ緊急事態宣言が出されている地域への移動は原則禁止とする。やむを得ず往来した場合は、本県に移動した日から14日間は、自宅等で待機し経過観察を行う。
- 他都道府県への移動は、事前に学生課に届ける。移動の際は、感染防止を徹底し、感染には十分注意する。
- 令和3年3月31日以降、宮城県、山形県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、沖縄県への移動を禁止している。事前に移動許可を申請し、登学の許可を得た者を除き、制限地域に移動した場合や該当地域からの来訪者と濃厚接触した場合は、2週間の自宅待機を要請している。海外への移動も禁止している。
- 県外移動は事前申請、帰県後報告が必要。帰県後は安全確認まで自宅待機
・不要不急の観光・旅行は控えることとし、「COCOA」の使用を強く勧奨

Q18. 長期休み明けの登校前に検疫期間を設けていますか？

※割合は各回答計を100とした場合の%（ ）は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立
1. はい	39 47.6%	(50.0%)	26 60.5%	3 37.5%	10 32.3%
2. いいえ	43 52.4%	(50.0%)	17 39.5%	5 62.5%	21 67.7%
計(校)	82		43	8	31

長期休み明けの登校前に検疫期間を設けていますか？(82大学)



「1. はい」の内容（主な回答）

- 国外または緊急事態宣言発出中の地域に滞在した場合、当該地域を離れてから14日間は登校不可となり、保健管理センターで作成した健康チェックシートに14日間分の健康状態を記入し当該シートを保健管理センターで確認したうえで、問題ない学生が登校できるようになっている。
なお、臨床実習及び臨地看護学実習の学生は県外の地域に滞在した場合も上述の適用となる。
- 全員に対してPCR検査を要請
- 登校日の2週間前からe-learning上での体温・症状の有無等をチェックし、記載漏れがあった際は、登校を禁止する可能性もある。
- 対面による授業(実習・演習)、臨床実習、試験のいずれか初日の2週間前から県内に滞在するよう通知している。

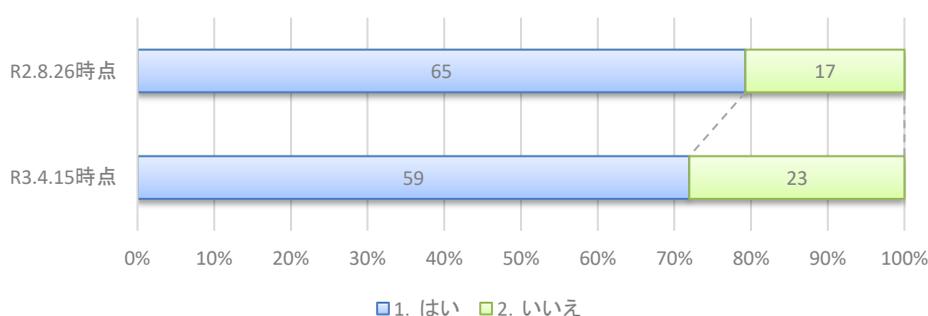
- 帰省・私的訪問の場合も含め、県外へ移動し、下宿先へ戻ってきた場合には原則として14日間の自宅待機、またはPCR検査。
- 臨床実習生に対しては、登校前の2週間前までに県内に戻ることとし、やむを得ず戻れない場合には、県内に戻った翌日から起算して7日後にPCR検査を実施し、陰性が確認された場合にのみ、翌日から登学を許可している。
- 感染者が多く出ている地域にやむを得ない理由で移動した場合は、帰県後2週間は厳格な体調管理を行い、実習参加の際は「健康管理記録」で指導教員のチェックを受けることとなっている。

Q19. コロナ禍における学生のメンタルヘルス問題に特別な支援を講じていますか？

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体		(前回)		国立		公立		私立	
1. はい	59	72.0%	(79.3%)	33	76.7%	3	37.5%	23	74.2%	
2. いいえ	23	28.0%	(20.7%)	10	23.3%	5	62.5%	8	25.8%	
計(校)	82			43		8		31		

コロナ禍における学生のメンタルヘルス問題に特別な支援を講じていますか？(82大学)



「1. はい」の内容 (主な回答)

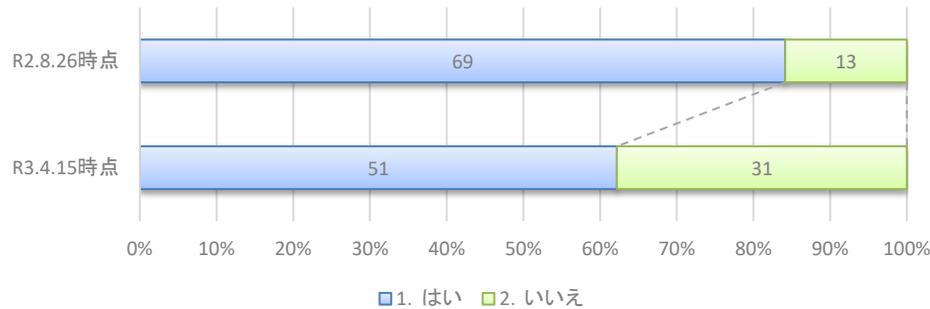
- 新入生全員にメンター教員を配置し支援しているほか、全て学生に対しアドバイザー教員を配置し、必要に応じて面談や本学学生相談・特別支援センターへの紹介を行っている。同センターには臨床心理士の資格を有する教員が13人配置され、メンタル問題に対するきめ細かな支援が実施されている。
- コロナ陽性者と接触し自宅待機を強いられた学生には、保健管理センターの精神科医師から連絡を入れてもらい積極的にフォローしている。
- 学生部からアンケート調査を実施し、スクリーニングを行ったり、学年担任や学生部長、医学部長、学長等から定期的にメッセージを配信している。
- 休学以外で休みが多い学生、気になる学生を調査対応。グループ担任が受け持ち学生のヒアリング等
- 特に第1学年に対して、指導教員による定期的な面談をZoomを利用して実施した。
- 登学禁止期間は、週に一度学生相談室職員がホストとなり、不特定多数の学生が入れるようなwebでのコミュニケーション場を設けていた。
- 大学のキャンパスライフ健康支援センターで、コロナに関する不安や悩みについて、専門家による電話相談等を受け付けている。
- 学生相談室におけるカウンセリングについて、対面だけでなく、SKYPE、ZOOMでの相談にも対応する。
- 保健管理センターおよび学生相談室で、教員や学務課職員と連携を取りながら、電話やメール等により、新型コロナウイルス感染症に関する学生の心身の悩みの相談にのり、必要に応じて、臨床心理士によるカウンセリングを行った。また、学生と保護者向けに、4月以降毎月保健管理センターのホームページに「学生相談室からのお知らせ」を掲載し、コロナ禍におけるストレスのサイン、生活リズムを整えることの重要性、「睡眠・覚醒リズム表」などを記載した。さらに、学生が匿名で悩みなどを気軽に書き込むことができる「なんでもBOX」をホームページ上に開設した。
- 本学の医学部学生生活委員会において、4月「メンタルヘルス相談員」を配置し、4名の教員(内2名は精神科医)が対応(電話、オンライン面接、直接面接)し支援している。

Q20. アルバイト自薦などによって経済的困窮に陥っている学生に特別な支援を講じていますか？

※割合は各回答計を100とした場合の% ()は前回の%

	全体	(前回)	国立	公立	私立	
1. はい	51	62.2% (84.1%)	34	79.1%	14	45.2%
2. いいえ	31	37.8% (15.9%)	9	20.9%	5	62.5%
計(校)	82		43	8	31	

経済的困窮に陥っている学生に特別な支援を講じていますか？
(82大学)



「1. はい」の内容 (主な回答)

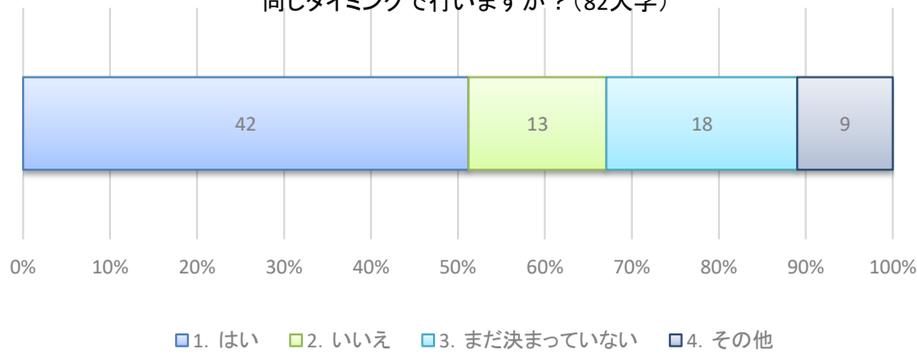
- 医学研究科内で、学生が可能な事務や研究支援をアルバイトとして募集し採用している。
- 学生に対して経済的状況についてのアンケート調査を実施し、その結果、経済的に困窮していると回答した学生のうち、本学の教員が支援を必要と判断した学生に対して、現金給付を実施している。
- 学費の減免や納入時期の延期、大学全体で食料の配給・支援、看護師宿舎(宿舍費が無料)への入寮許可など。
- 独自の緊急学生支援策として、経済的に困窮している学生に月額5万円を無利子・無保証人で貸与する制度を実施。
- コロナ対策緊急奨学金(貸与) 年額200,000円<無利子・一括振込>
 応急奨学金(貸与) 年額100,000円~600,000円<無利子・一括振込>
- 一時金の給付, 授業料の免除, 市民等から寄贈された食糧の配布
- 2020年度は全学として、緊急生活支援金制度を創設し、新型コロナウイルス感染拡大の影響により収入が絶たれ、親族等の援助や奨学金等もなく、日々の食事の確保が困難である、真に生活に困窮している学生(外国人留学生を含む。)に対し、1人3万円の経済支援を行った。
 さらに医学部、歯学部、薬学部合同の修学・奨学金事業寄付金を募集し、各種の経済的支援(一時的経済支援、マスク等消耗品支援、PCR検査への補助、退学・未納除籍防止のための経済的支援等)を実施した。2021年度は検討中。
- 令和2年度には2度の経済支援(支給のべ数53人、総額495万円、)を行い、令和3年度も必要に応じて実施を予定している。

Q21. 臨床実習生(SD)のワクチン接種をこの春の医療従事者への接種と同じタイミングで行いますか？

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立				
1. はい	42	51.2%	23	53.5%	4	50.0%	15	48.4%
2. いいえ	13	15.9%	6	14.0%	1	12.5%	6	19.4%
3. まだ決まっていない	18	22.0%	9	20.9%	2	25.0%	7	22.6%
4. その他	9	11.0%	5	11.6%	1	12.5%	3	9.7%
計(校)	82		43	8	31			

臨床実習生(SD)のワクチン接種をこの春の医療従事者への接種と同じタイミングで行いますか？(82大学)



「2. いいえ」のワクチン接種の時期 (主な回答)

- 医療従事者の接種終了次第実施。
- 時期はワクチンが来次第のことで未定だが、医療従事者の次の優先順位で行う。
- 5月からの実施を予定している。
- ワクチンを確保できていないため未定

「4. その他」の内容 (主な回答)

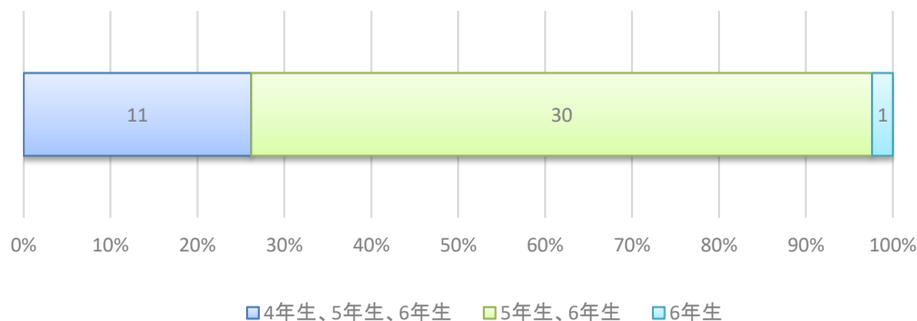
- 臨床実習を行う学生に対して接種を実施するが、希望者のみを対象としている。
- ワクチンがあれば学生にも実施する予定です。
- 県に要望したが、県から具体的な供給予定についての連絡なし。在庫が足りず、学生には回してもらえない雰囲気です。
- 今のところ、接種させる予定はない。
- 県と調整中
- 希望者の申請は行って接種を予定しているが、希望医療従事者全員の接種日が確定しておらず、優先順位がその後になるので未だ接種時期が確定できていない。

Q21-1. Q21で「1」を選択した場合、その対象は何年生ですか？

※割合は各回答計を100とした場合の%

	全体	国立	公立	私立
4年生、5年生、6年生	11 26.2%	3 13.0%	1 25.0%	7 46.7%
5年生、6年生	30 71.4%	19 82.6%	3 75.0%	8 53.3%
6年生	1 2.4%	1 4.3%	0 0.0%	0 0.0%
計(校)	42	23	4	15

Q21で「1」を選択した場合の対象学年(82大学)



Q22. その他の共有すべき情報

- 全学生に手指消毒剤(アルコール除菌スプレータイプおよびアルコールジェルタイプ)を配布している。
医学部内の要所に手指消毒剤および消毒用アルコール綿を準備し、いつでも学生が使用できるようにしている。
- 4年生以下の接種については附属病院に配布されたワクチンに余剰が生じたら接種することになっている。(Q21-1関連)
- 接種については順次全学年を実施する(Q21-1関連)
- 看護学科(第3学年、第4学年)の臨床実習生に対しても、医療従事者への接種と同じタイミングでワクチン接種を行う予定。
(Q21関連)